

国連生物多様性の10年における民間の取組・成果集約と国際発信による次期国際枠組への貢献(3年目)

活動地域  日本全域



課題

愛知目標の合意から10年が経過。2020年までの目標達成に向けてのさらなる取組み強化とともに、10年の成果の把握と次期目標への日本からの提言プロセスを作る必要がある。

目標

日本の民間を中心とした愛知ターゲット達成の取組みと成果をまとめ、国内外に発信することを軸に、次期目標の担い手となるユースの参画や能力養成を図ることをめざす。

ひろげる助成

3年目

知識の提供・普及啓発

活動内容と成果

- 生物多様性条約第9閣連会議は延期されたものの、オンラインフォーラムの傍聴、海外情報の国内への展開、様々なNGOを巻き込んだ、ポスト2020枠組みを受けた国内検討へのインプット(環境省との意見交換5回、オンラインフォーラムシリーズ計7回、760人登録)などを行った
- ユース支援については、指名した生物多様性ユースアンバサダーを支援し、10テーマでの活動を展開。成果発表(オンラインイベント・電子での冊子製作)の機会を国内外で得るなど成果への評価が高かった



ユース活動成果冊子

政府への提言機会(会合)の創出

5回

ユースアンバサダー 10チーム

今年度計画の達成度 30%

目標達成度 70%

苦勞した点と工夫した点

苦勞した点

政策提言先である国際会議／交渉プロセスの延期や変化があり、事業の柱の一つが大幅な変更を強いられた。

工夫した点

国内での政策提言はオンライン会議を活用し、全国規模で展開できた。ユース事業も、ユース団体の今後の成長の支える形で展開。



今後の展望

日本におけるポスト2020枠組みへのNGOと環境省との意見交換については、高い評価を得る機会を重ねることができた。生物多様性条約下における交渉への政策提言について、手法や機会の作り方など検討が必要。

〒104-0033
東京都中央区新川1-16-10
ミトヨビル2F
電話：03-3553-4109
E-mail：iucnj@naesj.or.jp
HP：http://bd20.jp/

